様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２６ 日現在

機関番号：３２６６０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ０２３４７

研究課題名（和文）シュタイナー学校における教員養成プログラムを支える理論とその実態の解明

研究課題名（英文）A Survey of Teacher Training Programs in Waldorf Schools

研究代表者
井藤　元（ITO, GEN）

東京理科大学・教育支援機構・教授

研究者番号：２０６１６２６３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、シュタイナーの教師教育論を読み解くとともに、シュタイナー教育の教員養成プログラムの内実を解き明かした。具体的には、シュタイナー学校の教員およびシュタイナー教育の教員養成に携わっている教師たちにインタビューを行い、彼らがシュタイナー学校の教員志望者に、何を、どのような手段で伝えようとしているのか、その理念と方法を解明した。
　調査にあたってはシュタイナー学校の教員になりたての方からキャリア30年近くの方まで20名以上の教員に聞き取り調査を行った。本研究はコロナ禍で遂行されることとなったが、オンラインツールを有効に活用し、全国のシュタイナー学校の教員にインタビューを行うことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
シュタイナー教育の教員養成プログラムの内実を明らかにすることは、単にシュタイナー教育という特殊事例における教員養成の問題を扱うに留まるものではない。それは主体的・対話的で深い学びを主軸とした教育を担う教員はいかにして養成が可能なのかという問題へと直結するものである。本研究ではシュタイナー教育をひとつの事例として、今後の我が国における教員養成の在り方そのものを問うてゆくことを目指したが、その成果は拙著『シュタイナー学校の道徳教育』（イザラ書房、2021年）のうちに結実した。また、本研究の成果は拙著『教育芸術を担うシュタイナー学校の教師たち』（近刊）において発表する予定である。

研究成果の概要（英文）：　This study elucidated Steiner's theory of teacher education. It also elucidated the reality of Steiner education teacher training programs. We interviewed teachers at Steiner schools and teachers involved in Steiner education teacher training. We elucidated the philosophy and methods of what they are trying to convey to prospective teachers.
　More than 20 teachers, from newcomers to veterans, were interviewed for the study. The study made effective use of online tools and was able to interview teachers at Steiner schools in Japan.

研究分野：教育哲学

キーワード：シュタイナー教育　教員養成　脳波測定　オルタナティブ教育

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

主体的・対話的で深い学びが推奨される今日の教育において、では、そうした学びを担う教師はいかに育成することができるのであろうか。この問いが本研究の出発点に位置づいている。つまり、シュタイナー教育における教員養成のありようを一つの試金石とすることで、本研究は、シュタイナー教育を「特異なオルタナティブ」に留めることなく、パブリックな共有可能性を高めていくことを本務としている。

さて、現在、世界的に高く評価されているシュタイナー教育ではあるが、そこにおける教員養成の実態については先行研究においてほとんど明らかにされていないというのが現状である。クリストフ・ヴィーフェルト(『シュタイナー学校は教師に何を求めるか』、水声社、2007 年)や河津雄介(『シュタイナー学校の教師教育』、創林社、1988 年)などのわずかな研究があるのみである。とりわけ、わが国におけるシュタイナー学校の教員養成プログラムの内実を解き明かした研究は管見の限り見当たらない。

２．研究の目的

本研究はシュタイナー学校における教員養成の内実の解明を試みたものである。シュタイナー教育は、思想家であり教育者であるルドルフ・シュタイナー（Rudolf Steiner 1861-1925）が生み出した独自の教育実践であり、オルタナティブ教育の代表格とされる。「芸術」を実践の中心に据えたシュタイナー学校の教育実践は、21 世紀型の教育を推進している学校として世界的に高く評価され、近年、シュタイナー学校は学校として世界規模で急増しており、その数は全世界で 1000 校を超えるといわれている。そこでの学びは時代的ニーズとも合致し、主体的・対話的で深い学びを中心とした教育が展開されている。

そのように世界的に広く受容されているシュタイナー教育の実践は極めて独自性が高いのだが、ここでその特徴を 4 点挙げておく。（１）シュタイナー学校では 8 年間一貫担任制が採用されており、小学校 1 年生から 8 年生まで担任が変わらない。（２）そこにおいて教師は「魅力ある権威」として位置づけられ、エポック授業（一つの主要科目を 3～4 週間毎日続けて学ぶカリキュラム）を柱とした教育活動を展開してゆく。（３）また、シュタイナー教育では実践の隅々にまで芸術が浸透しており、子どもたちはすべての教科を芸術的に学んでいる。（４）さらに、シュタイナー学校では「道徳」という科目が存在していないのだが、それは道徳教育の不在を意味するのではなく、むしろその逆で、あらゆる場面のうちに道徳教育が潜在している。

以上のような特徴を有するシュタイナー学校において、教師には極めて高度な力量が求められる。教師には 8 年間、長期的展望のもとで子どもや保護者と関わり、あらゆる科目に芸術を浸透させ、同時にその中で道徳教育を行ってゆく力が必要なのであるが、シュタイナー学校の教師となるためには教員免許状に加え、シュタイナー教育独自の教員養成プログラムを修了することが求められる。では、そうしたシュタイナー学校の教員はいかに育成されているのであろうか。本研究では、ユネスコからも高く評価されているシュタイナー教育における教員養成の問題に焦点をあて、その内実を解明することを目指した。

３．研究の方法

本研究ではシュタイナー教育思想の思想的源泉にまで遡ることを通じて、シュタイナーの思想形成の瞬間に立会い、その根本的基盤を浮き彫りにさせた。この作業を通じて、シュ

タイナー教育を支える基本的構図を抽出し、その上でそうした構図がシュタイナー教育の教員養成プログラムのうちにいかに結実しているかを明らかにした。

そして、本研究では日本全国のシュタイナー学校の教壇に立つ23名の現役教師にインタビューを行った。インタビューの対象は、シュタイナー学校での教師歴1年目の者からキャリア30年近くの者までさまざまで、若手からベテランまで幅広く話を聞いた。

インタビューにおいて、第一に、教師たちの来歴を丁寧に追った。シュタイナー教育を支える教師その人に焦点を当てたいと考えたからである。インタビュー調査を通じて、シュタイナー学校で働く教師たちの抽象的な教師像を示すのではなく、葛藤を抱えながら探究を続ける、血の通った生きた教師の姿を浮き彫りにさせることを目指した。

教師たちのライフヒストリーを明らかにしたのち、第二に、彼らがどのようなプロセスを経てこの学校の教師となったのか、教員養成段階における体験を整理した。

第三に、教師たちがどのような教育観・子ども観をもち、何を大切にしながら子どもたちと関わっているのか、その内実を分析した。教師たちに土台を与えている共通の基盤を分析することが課題となった。

また、教師へのインタビューと並行して、シュタイナー教育独自の実践における実践者の脳波測定を通じて、シュタイナー教育の諸実践の科学的分析を試みた。脳波はその周波数帯域の違いによって、5種類（δ、θ、α、β、γ）に分けられ、各脳波が発生する条件には特徴がある。シュタイナー教育の実践時の脳波を測定することにより、シュタイナー学校の教師たちが感覚的・直観的につかみ取ってきた事柄に客観性を付与することを目指した。本研究では特に「フォルメン線描」「ぬらし絵」「オイリュトミー」「音楽演奏」といったシュタイナー教育に特徴的な実践にフォーカスし、それらの実践時における実践者の脳波を測定した。シュタイナー学校で行われている諸々の実践のエビデンスを示すことで、そのエッセンスを現代のわが国の学校教育へと応用し、今後の教育を設計する上での示唆を得ることを目標に掲げた。

４．研究成果

本研究で得られた成果は、後掲の研究成果一覧に示した通りであるが、その中でも、2冊の単著および1冊の翻訳書のうちに結実した成果は特に大きな意義を有しているように思われる。1冊目は、井藤元『シュタイナー学校の道徳教育』（イザラ書房、2021年）であり、2冊目はマルグリッド・ユーネマン著（井藤元・小木曽由佳訳）『黒板絵–シュタイナー・メソッド』（イザラ書房、2022年）である。３冊目は、2023年度中に刊行予定の書籍：井藤元著『教育芸術を担う　シュタイナー学校の教師たち』である。

本研究におけるアプローチを通じて得られたこれらの成果によって、シュタイナー教育に潜在する思想的構図を抽出し、その根底にある教育メカニズムを原理的次元で解明したことで、これを特異で閉鎖的な思想空間から解き放つことも可能になったように思われる。本研究を通じて、シュタイナー学校での教員養成のエッセンスを抽出したことで、そのエッセンスを現代のわが国における教員養成へと応用し、今後の教育のあり方を探ってゆくための示唆を得ることができたのではないかと考える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 井藤元、山下恭平、徳永英司	４．巻 53
２．論文標題 プロの画家による写仏実践時における脳波の分析	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『東京理科大学紀要　（教養篇）』	６．最初と最後の頁 269－283頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 井藤元　山下恭平　徳永英司	４．巻 6
２．論文標題 シュタイナー教育における楽器演奏時の脳波の測定	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『東京理科大学　教職教育研究』	６．最初と最後の頁 13-23頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山下恭平、井藤元、徳永英司	４．巻 23
２．論文標題 デジタルペンタブレットを用いてぬらし絵は可能かーぬらし絵実践時の脳波測定	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『ホリスティック教育/ケア研究』	６．最初と最後の頁 44-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 井藤元、山下恭平、徳永英司	４．巻 5
２．論文標題 脳波測定を通じたぬらし絵（にじみ絵）の分析	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『東京理科大学　教職教育研究』	６．最初と最後の頁 15‐25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山下恭平　井藤元　徳永英司	4．巻 22
2．論文標題 フォルメン線描とマインドフルネス―脳波測定を通じた分析	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ホリスティック教育／ケア研究	6．最初と最後の頁 61-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井藤元　山下恭平　はたりえこ　徳永英司	4．巻 51
2．論文標題 脳波測定を通じたオイリュトミーの分析－シュタイナー教育の科学的検討に向けて	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東京理科大学紀要（教養篇）	6．最初と最後の頁 323-341
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井藤元　山下恭平　徳永英司	4．巻 4
2．論文標題 脳波測定によるフォルメン線描の検討―デジタルペンタブレット上でフォルメン線描は可能か	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東京理科大学　教職教育研究	6．最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　7件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 井藤元、山下恭平、徳永英司
2．発表標題 シュタイナー教育において楽器演奏がもたらす効果- 脳波測定による分析
3．学会等名 日本教育学会
4．発表年 2020年

１．発表者名 井藤元
２．発表標題 デジタル機器とのつき合い方
３．学会等名 沖縄シュタイナー教育実践研究会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 井藤元
２．発表標題 フォルメンを科学的に読み解く
３．学会等名 沖縄シュタイナー教育実践研究会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 井藤元、山下恭平、徳永英司
２．発表標題 脳波測定を通じたシュタイナー教育の科学的検討 ―デジタルペンタブレットを用いてフォルメン線描・ぬらし絵の実践は可能か
３．学会等名 日本ホリスティック教育/ケア学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 井藤元、山下恭平
２．発表標題 シュタイナー教育の意義を科学的に解明する－オイリュトミー、フォルメンの分析
３．学会等名 シュタイナーとアート研究会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 井藤元、山下恭平
２．発表標題 シュタイナー教育と心の問題
３．学会等名 沖縄シュタイナー教育実践研究会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 山下恭平　井藤元　徳永英司
２．発表標題 フォルメン線描とマインドフルネス―脳波測定を通じたフォルメン線描の分析
３．学会等名 日本ホリスティック教育/ケア学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 井藤元
２．発表標題 シュタイナー学校の教師に求められること
３．学会等名 グラダリス　シュタイナー研究会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 井藤元
２．発表標題 シュタイナー教育における教師・大人の姿
３．学会等名 沖縄シュタイナー教育実践研究会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 井藤元
２．発表標題 「自由への教育」とは何か―シュタイナー教育に影響を与えた思想家たち（ゲーテ、シラー、ニーチェなど）
３．学会等名 石垣シュタイナー研究会（招待講演）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計12件

１．著者名 マルグリット・ユーネマン、井藤 元、小木曽由佳	４．発行年 2022年
２．出版社 イザラ書房	５．総ページ数 104
３．書名 黒板絵	

１．著者名 井藤 元	４．発行年 2021年
２．出版社 イザラ書房	５．総ページ数 264
３．書名 シュタイナー学校の道徳教育	

１．著者名 石田 勇治、佐藤 公紀他編、井藤元他多数	４．発行年 2020年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 744
３．書名 ドイツ文化事典	

１．著者名 井藤　元、毎日新聞社	４．発行年 2020年
２．出版社 日本能率協会マネジメントセンター	５．総ページ数 212
３．書名 記者トレ	

１．著者名 竹尾　和子、井藤　元	４．発行年 2020年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 290
３．書名 ワークで学ぶ発達と教育の心理学	

１．著者名 ネル・ノディングズ著、井藤元・小木曽由佳訳	４．発行年 2020年
２．出版社 春風社	５．総ページ数 312
３．書名 人生の意味を問う教室	

１．著者名 井藤　元	４．発行年 2019年
２．出版社 日本能率協会マネジメントセンター	５．総ページ数 232
３．書名 マンガでやさしくわかるシュタイナー教育	

１．著者名 井藤　元編	４．発行年 2020年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 284
３．書名 ワークで学ぶ教育学〔増補改訂版〕	

１．著者名 竹尾　和子、井藤　元編	４．発行年 2019年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 282
３．書名 ワークで学ぶ学校カウンセリング	

１．著者名 井藤元編	４．発行年 2020年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 294
３．書名 ワークで学ぶ道徳教育〔増補改訂版〕	

１．著者名 今井 重孝、はたりえこ、井藤元ほか	４．発行年 2019年
２．出版社 イザラ書房	５．総ページ数 128
３．書名 美の朝焼けを通って	

１．著者名 小室　弘毅、齋藤　智哉編、井藤元ほか	４．発行年 2019年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 240
３．書名 ワークで学ぶ教育の方法と技術	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関